

『莊子』『大宗師』の「四人相視而笑、莫逆於心」の用例、および韓愈の「送侯參謀赴河中幕詩」の「相逢風塵中、相視迭嗟矜」の句を引く。

112 ○聯句：数人が相集まり句をつらねて一首の詩をなすものをいう。連句とも書きまた聯詩ともいう。  
近藤春雄氏は『中国学芸大事典』で次のように説明する。

二人以上で句を聯ねて一首の詩を成すものをいう。一に連句とも書き、また聯詩ともいう。その起源については①舜臯陶の元首股肱歌に始まるとするもの（清、閻若璩など）、②詩經の式微に始まるとするもの（困学紀聞・泊宅編）、③漢の武帝の柏梁体の詩に始まるとするもの（文心雕龍、樂府古題要解）などがある。晋宋以後の聯句は、諸家の集のほか、古詩紀・陔余叢考などに引いている。柏梁体聯句以後、晋の賈充と妻の李氏との聯句、陶淵明の聯句、宋の鮑照の聯句、齊の謝朓、梁の武帝、元帝の聯句などがあるが、唐の韓愈に至り、その体が定まった。なお、五言排律の聯句は唐の白樂天に始まり、これは就対といっている。（中略）わが国の聯句は大津皇子に始まり、後人が続けている。

補説  
①

○107句  
馮衍について

「馮衍歸里・張昭塞門」（『蒙求』の標題）